

新たに文化財5件指定

今回新しく指定されたのは、「^{みずら}下町屋台泥幕 蛟」、「^{ねはんず}円通院の涅槃図」、「^{ねはんず}長生寺の涅槃図」
「万年家業一件帳」、「秋元氏家臣の墓」です。



「下町屋台泥幕 蛟」 下町自治会所有

下町屋台を飾る幕で、龍に似た想像上の動物である、「蛟」が描かれています。幕は金糸の刺しゅうが施されており、江戸時代後期の文化を今に伝える貴重な美術工芸品です。

縦207センチ、横138センチで、涅槃(釈迦入滅の際の様子)が描かれたものです。裏面には寛文13年3月15日という製作年代と、女性を中心とした寄進者名が記されるなど、歴史的資料として価値が高いものです。

「円通院の涅槃図」 円通院所有



「長生寺の涅槃図」 長生寺所有

縦150センチ、横90センチの涅槃図で、銘や落款は認められないものの、「甲斐国志」には作者が^{ちようでんし}兆殿司とされています。

兆殿司は、正平7年(1352)淡路に生まれた室町時代の画僧で、宋の^{りりやうふん}李龍眠の画法を学び、力強い運筆が特色とされています。

この涅槃図の来歴は不明ですが、市内最古の涅槃図です。

「万年内家業一件帳」 米山源之助氏所有

境の米山家に、「家業日記」と呼ばれる日記が伝来しています。安永9年(1780)から明治16年(1883)まで、歴代の米山家の当主が代々書き継いできたもので、日々の暮らしの様子が簡潔ですが、つぶさに記されています。当時の暮らしぶりのうかがえる貴重な歴史資料です。



「秋元氏家臣の墓」 円通院所有

寛永10年(1633)、秋元泰朝が谷村城主となり、城下町の整備が行われましたが、その折、円通院は現在地に移され、その家臣が檀信徒となり、諸堂が整備されました。

円通院では、高山家を始め、秋元氏家臣21家の墓碑が発見されており、城下町の歴史を物語る貴重な資料です。



市内児童遊園地等一覧表

市内にある児童遊園地は下記のとおりです。どうぞ、ご利用ください。



地区	遊園地の名称	所在地自治会名	地区	遊園地の名称	所在地自治会名	地区	遊園地の名称	所在地自治会名
上谷	楽山公園	楽山	三吉	下戸沢御嶽神社境内	下戸沢	宝	サントウン平栗公園	サントウン平栗
	上町ふれあい広場	上町		ヨッチャバレ広場	上戸沢		四日市場遊園地	四日市場
	天神町児童遊園地	下天神		サントウン玉川公園	サントウン玉川		瀬中赤坂チビッコ広場	四日市場
	城南公園(暫く利用不能)	早馬町		熊井戸児童遊園地	熊井戸		瀬中赤坂山梨大明神広場	四日市場
	谷村町駅裏こども遊園地	早馬町		熊井戸第2児童遊園地	熊井戸		月見ヶ丘遊園地	月見ヶ丘
谷	新町遊園地	新町	開地	上小野児童遊園地	上小野	禾	古川渡ふれあい広場	古川渡
	川棚児童遊園地	川棚		下細野チビッコ広場	下細野		中島ふれあい広場	古川渡
	旭ヶ丘児童遊園地	旭ヶ丘		上細野チビッコ広場	上細野		井倉健康ふれあい広場	井倉
中谷	仲町児童遊園地	仲町		菅野児童遊園地	菅野		諏訪神社境内	川茂
	高尾町児童遊園地	高尾町		権現原児童遊園地	権現原		小形山遊園地	小形山
	御嶽神社境内児童遊園地	横町	東桂	十日市場会館広場	十日市場	生	門前児童遊園地	田野倉
下谷	田町公園	田町		沖児童遊園地	沖		三嶋神社境内	田野倉
	下谷地区ふれあい広場	弁天町		古渡遊園地	古渡		田野倉宿遊園地	田野倉
	新井こども遊園地	新井		古渡住宅遊園地	古渡		田野倉団地遊園地	田野倉団地
	鷹の巣児童遊園地	鷹の巣		蒼竜峽児童遊園地	蒼竜峽		九鬼団地遊園地	九鬼団地
三吉	雇用促進住宅広場	雇用促進下谷		境児童遊園地	境	盛里	愛宕山児童遊園地	日向
	羽根子チビッコ広場	羽根子	宝	金井児童遊園地	金井		盛里農村公園	上手
	法能児童遊園地	法能		春日神社境内	中津森		曾離児童遊園地	曾離
	住古児童遊園地	日の出		下大幡チビッコ広場	下大幡		朝日ふれあい広場	神門久保馬場
	玉川児童遊園地	玉川		上大幡公民館広場	上大幡		大平児童遊園地	大平
	引の田遊園地	引の田		旧平栗分校跡地	加畑平栗			

※管理・運営は地元自治会などが行っています